

令和4年度

華服飾専門学校

自己評価・学校関係者評価報告書

基準項目ごとの学校自己評価及び学校関係者評価・意見

基準1 教育理念・目的・育成人材像

自己評価結果

建学の精神「華学園の教育を通じて、時代の求める職業人を育成し、社会の発展に寄与すること」（教育理念）に則った教育目標・育成人材像が明確に定まっていなかったため、改めて作成した。

<各科の育成人材像>

ファッションテクニカル科

アパレル製品から舞台衣装まで様々な衣服を作り上げる技術と知識を持った誠実な人材。

ファッションクリエイター科

ファッションをビジネスとして捉え、マーケットニーズに合った服飾文化を創造し、提案の出来る誠実な人材。

<各科のディプロマポリシー>

ファッションテクニカル科

- ・様々な服を作り上げる製図、縫製の技術と知識を身につけている。
- ・真、善、美による価値判断と行動を身につけている。
- ・他者と円滑なコミュニケーションができる力を身につけている。
- ・礼節を重んじ誠実さが身につけている。
- ・パターンメイキング技術検定2・3級、洋裁技術認定初級・中級の資格を取得、又はこれらの資格と同等の技術と知識を身につけている。

ファッションクリエイター科

- ・マーケティング思考を身につけている。
- ・真、善、美による価値判断と行動を身につけている。
- ・他者と円滑なコミュニケーションができる力を身につけている。
- ・礼節を重んじ誠実さが身につけている。
- ・ファッション販売能力検定2・3級、洋裁技術認定初級の資格を取得、又はこれらの資格と同等の技術と知識を身につけている。

【関係者評価】

- ・理念、人材像は普遍的なもので、どこまで到達させるかと方法論を明確にすること。
- ・1人の社会人をしっかりと育成されている。それを目標としてなされている。
- ・育成人材像を目指して学生全員が学べるように全職員が一丸となることが大切です。
- ・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力は学校生活、授業の中に組み込み習慣化させる。

【回答】

- ・令和7年度入学者を対象にカリキュラムの見直しを行い、令和5年度に改定を行う予定である。

基準2 学校運営

自己評価結果

<運営>

基本的な運営方針が定められ、教育方針に沿った形でカリキュラムを編成し、実施に向けて設備投資や人材確保を行っている。運営予算については、年度計画を学校長のもとで検討作成し、学園本部と予算会議を行い、執行にあたってはその都度、稟議書を作成しチェックする体制がとられている。

運営の組織は明確になっており、法人部門と学校部門の職務分掌がなされている。基本的な学校運営に関しては、学校長が最終的な決裁のもと、学科責任者と教務で行っている。設備投資に関しては、予算をもとに、稟議制度に則り、承認を得るシステムになっている。人事については半年ごとの人事考課制度に則り、個人が目標を設定し、達成度合いを自己評価し校長が面談で評価を行っている。その結果を、学園本部が総合的に相対評価を行っている。

華学園では、80周年を迎えるにあたり理事協議会で新たに中期3ヵ年計画の策定を協議し、現在とり進め中である。本校では時代や要望に即し、すでに1部のカリキュラムの見直しを行っている。

現状の最大の課題は、学生をいかに確保するかである。本校の魅力を打ち出すために職業実践専門課程の目的に沿った、社会のニーズに適った科目の導入やカリキュラムの見直しが必要である。

【関係者評価】

- ・施設の最大活用をもっと目を配らせること。ショップは倉庫と化し、活かされていない。
- ・専門学校としての専門性を十分に果たされていると思っています。
- ・人件費削減が教育の質の低下にならないよう配慮してください。高い教育レベルと Face to Face の決め細やかな指導が御校の魅力であると思います。
- ・予算を削り学生へのサービスが低下しないように注意が必要。

【回答】

- ・設備の最大活用を検討する。
- ・「教育理念」や「育成人材像」に即したカリキュラムへの変更を検討する。それに応じた教員の配置を行う。

基準3 教育活動

自己評価結果

<学生の質の向上>

委員会で意見の聴取や検討を行い、教育課程に反映している。具体的には、専門科目に関しては基礎知識・技術の習得、その他プレゼン力・コミュニケーション力の向上が重要であるとの多数の意見を反映し、随時作品発表会を実施しプレゼン力は向上している。

キャリア教育に関しては、就職ガイダンス、ビジネスマナー等を実施し、今年度より企業説明会を1年生向けに再開し、意識向上を図っている。

服は「飾り物」で無く、「人の体に合わせてオシャレに着こなす(魅せる)」という視点で、不足する点は授業内容を見直しファッションショーも取り組み方を変更し行っている。今後は、常勤の教員もそれに合わせて、業界で求められる知識、技能習得教育力・指導力の質向上が必要である。

<教員の資質向上>

常勤教員7名中、授業運営のための資質向上を目指す「教員研修」に2名、事務処理能力向上のためパソコン研修に1名、パターン・縫製の技術向上のための研修に2名が参加(1名は複数参加)。

<教育設備>

同規模他校と比べ、教室の広さやミシンの台数は入学者が現状である限りは優位な環境にある。

一方で、パソコン、CADの設備は老朽化し早急に入れ替えが必要。また、それに伴いWi-Fi環境も学園として必要である。縫製関連の授業上、常時必要なアイロンも数が不足し作業に滞りが生じているため、購入し補充が必要である。

【関係者評価】

- ・プレゼンテーションの基本「結論・理由」。そしてそれを繰り返し学習。何事も基本を身につける。
- ・学生に対して協働学習の機会など、必要性を感じてなされていると思います。ファッション分野の技術の修得にはこれからもっとICT分野での活用が必要になると思います。
- ・ファッションビジネスの環境は大きく変化しています。建学の精神に沿い、DX推進の中でデジタルを使いこなすことが求められます。Wi-Fi、パソコン、CAD等の設備を整えるのは必要です。

- ・ F クリエーター科…縫製など服を作る技術不足 F テクニカル科…デザイン力、ビジネス感覚不足
- ・ プレゼンテーションは時間を決めて。下調べ内容が薄い。

【回答】

- ・ PREP 法を基本に ①結論 ②理由(目的) ③具体例(材料と方法) ④再度結論 の方法で説明を行うよう指導。
- ・ パソコン、CAD の更新。プロッター設置の方向で検討中。

基準 4 学修成果

自己評価結果

<就職率>

令和 4 年度の就職希望者に対する就職率は 100%であった。卒業者就職率も 96%となった。就職を希望しない学生の人数も昨年度の 7 名より 2 名に減少した。ただし、1 名は就職を前提に留学したので実質、就職希望せずとなったのは 1 名のみ。

縫製系の就職先では、工業用ミシンを使用でき即戦力になると高評価であった。

就職活動の早期化に伴い、就職ガイダンスの授業を 1 年次後期より実施し、同時に企業説明会を 10 月より行った。内定した先輩による内定者講話も新たに加えることで、就職率の向上を目指している。

<資格取得>

学習成果の証として、資格取得には特別講座も行い対策している。

パターン検定、他校では 3 年制以上の学科で 2 級を受検しているが、本校では 1 年で 3 級、2 年で 2 級を受検。今後の課題は受検者の学力の低下、検定取得の目的意識の低下による合格率の低下である。

<コンクール・ファッションショー参加>

新宿区、東京都主催等のファッションデザインコンクールに参加し 2 名が入賞した。「新宿ファッションフィールド」入賞。

東京都主催の「Next Fashion Designer of Tokyo」でも 1 名が奨励賞を受賞した。

【関係者評価】

- ・ 「資格取得」は目標としては OK。但し企業が求めるのは発揮能力(資質)で保有能力は後。
- ・ 服飾の分野の人材育成に対して貢献されていると思います。この分野でのまさにキックオフの学びだと思えます。
- ・ 「資格取得」、「就職」もガイダンスを 1 年後期から取り組んでいるのが良い取り組み。
- ・ 「資格取得」は本人の取得する意欲を高める必要がある。

【回答】

・ 「発揮能力」を高めるために「学内製作発表会」「外部コンクール応募」「内外ファッションショー」参加、「各種検定試験」へのチャレンジなどを行っている。新たに「ロールプレイング」なども行っている。

基準 5 学生支援

自己評価結果

<中途退学者への対応>

家庭環境、過去の不登校など精神的にも不安定な学生が非常に多く、担任レベルではフォローしきれず、校長も交え保護者にも連絡し、必要に応じて面談を行い、退学防止に取り組んでいる。それでも意欲のない学生、実習等についていけない学生など、退学者増に繋がっているのが現状である。入学直後に、担任による面談を早期に行うなど、防止策を考え実施している。今後は、専門のカウンセラーによる支援等何らかの対策が必要である。

<保護者への連絡>

随時、出欠状況、成績については担任が行っている。

<放課後の教室開放と指導>

衣装制作にあたっては、授業時間内に終了しない学生には実習室の開放を行い、指導も行っている。

<卒後の再教育プログラム>

プログラムとしては特に実施していないが、卒業生が仕事上で縫製などの指導を仰ぎにくることに対応している。

再就職の相談にも応じている。

【関係者評価】

- ・中途退学は防止として、毎月または隔月で保護者に日常生活の報告書の提供し退学回避。
- ・学生に ICT 活用をさせるのならば ICT に通じた人材とヘルプデスクのようなものも必要です。
- ・卒業した学生のオンライン・電話相談のサポートがあればよい。募集のPR材料にもなる。
- ・定期的に個々の人間関係など、実態を掴んで対応を考える。
- ・コースの内容理解が入学前に足りず、入学後に課題が追いつかない。専任で対応して欲しい。

【回答】

- ・2～3回の連続欠席があれば、本人はもちろん家庭に連絡して状況を共有し対処している。
- ・卒業生対応については、元担任とのライン交換を元に、相談があるが組織としての窓口を公開する。
- ・退学者防止は、担任がクラス内の人間関係を把握した上で 対処方法を検討している。
- ・「服飾造形」など製作の作業課題が追いつかない学生には、毎週金曜日に放課後の教室開放を延長し対処している。

基準6 教育環境

自己評価結果

<施設・設備>

職業用ミシンも1人1台を備え、演習室、作業台も広いスペースを確保し学習環境を整えている。しかし、アイロンも20年近く使用し老朽化している。また、パソコン、CADなどの更新も早急に必要である。

学園として図書室を設け、司書を配置している。専門書を配置し、年間計画に基づき蔵書を購入し、配架している。

<学外実習・インターンシップ>

教育効果を高める実施体制の構築を図っている。ただし、現在インターンシップは、実施時期の課題があり、正規の授業として教育課程上の位置づけはできていない。但し現在は、募集があれば積極的に就職希望などを参考に学生に紹介している。

実施に当たっては事前・事後の指導を行っている。

<防災>

学園事務局を中心に防災体制を構築し、マニュアル化している。防火防災避難訓練は毎年実施しており、新入生には防災グッズを配布している。

全ての校舎の耐震化を行い、緊急地震速報装置を設置している。法令に基づき、消防設備の点検、特定建築物検査を実施し、指摘事項には適切に対応している。

安全管理では、不審者対策として、受付での入退館チェックを行っている。夜間は人的、機械警備の両方を導入し、学校財産の保全に努めている。授業中の事故や怪我については、対応マニュアルを策定し対応している。

【関係者評価】

- ・服飾校として必要な機材の設置は必須、必要条件である。学生数と関係ない。
- ・設備の導入は大変だと思いますが、Wi-Fi環境は不可欠だと思います。
- ・防災の意識は高い。受付での入退館チェックもしっかりしている。
- ・学外実習は多いほど良い。事前事後の指導必要。

【回答】

・パソコン（更新）、CAD（更新）、プロッターについては導入、の方向で検討している。Wi-Fi環境については、学園にて検討。全館の環境が整うまでは、ルーターを導入し、教室のみ環境を整えることを検討している。

・インターンを今後も増やしていく方針であるが随時では授業（演習）に支障をきたすので、カリキュラム変更を機に計画的に出来ないか検討する。

基準7 学生の募集と受入れ

自己評価結果

<募集>

令和4年度の新規入学者数は38名であった。コロナ禍であったため学校選びが高校全体で遅れるなか、感染対策を行い、オープンキャンパスを実施したことで参加者は100名近くに増加し、オンラインで見づらい施設を見学するなど、対面で相談を行うことで入学増につながった。

一方で、18歳人口及びファッション分野の希望者が減少している。今後も募集は厳しい状況に変わりはない。

令和5年4月入学者向けの取り組みとして

オープンキャンパス参加者の入学者割合（歩留り）の向上を目的として、「オープンキャンパス内容の見直し」と学校説明で「華の特徴（他校との違い）」を明確にした。

今後は、入学者を増やすにはオープンキャンパス参加者そのものを増やすこと、その為、学園広報（部）の強化が必要（ガイダンス参加、高校訪問、WEB対策）である。

服飾校としては知名度向上のため、今年度より再開された外部コンクールに参加した。

今年は「新宿ファッションフィールド」入賞。

東京都主催の“Next Fashion Designer of Tokyo”も山本耀司 奨励賞を受賞した。

【関係者評価】

- ・どんな機会も一期一会の真剣勝負で望むこと。
- ・平日、放課後のオープンキャンパスは千葉、茨城の常磐線の学校をターゲットとして良いと思います。
- ・留学生、社会人、関東圏以外の地域開拓など既存の募集手段以外の検討も必要かもしれません。
- ・外部デザインコンクールは作品を作る能力が無いと応募は難しくなる。

【回答】

- ・華独自の提携寮の「特待生制度」を打ち出し、地方の掘り起こしを行う。

基準8 財務

自己評価結果

専門教育の実施に必要な教職員、施設設備等を確保して学校運営を行っている。借入金もなく設備投資も全て自己資金で行うなど、学園全体としての財務基盤はこれまでの努力もありしっかりしている。

主要な財務数値については、推移を正確に把握しており、年度予算の執行も妥当に行われている。財務監査については公認会計士の指導により適正な決算書類を作成し、監事の監査も行われている。財務情報については学校法人会計基準に準拠した形式によりホームページで公開している。しかし、単年度では厳しい状況が続き、入学者数の確保に苦慮している。特に服飾校では、分野としての人気の低迷もあり、定員確保ができず収益面では水面下になっている。無駄な支出を抑えつつも入学者増に向けて、魅力ある学校作りのためにカリキュラムの見直しに取り組んでいる。

【関係者評価】

- ・中途退学者は担当者を非常勤でも置いて対応が必要では。
- ・入学者を増やすことが最重要課題と感ずる。

【回答】

- ・「臨床心理士」などカウンセラーの設置検討を学園として設置をするのか検討が必要。
- ・入学者を増やすことは服飾校として最重要課題として取り組んでいる。

基準9 法令等の遵守

自己評価結果

各種法令等の遵守については、本校の学則をはじめとして明確に方針化されている。学校教育法のもと、専門学校教育に関する各種法令、専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。

個人情報の保護に関しては、令和4年度に新たに制定した「学校法人華学園個人情報取扱規程」に基づき、学生の個人情報に関する取り扱いは教務で適切に管理している。

学校教育法施行規則第66条、第67条及び第6条により実施する本校の自己評価は、令和4年度に新たに制定した「学校法人華学園自己評価の実施、運営規程」に基づいて行い、その内容は「学校法人華学園 学校関係者評価の実施運営規定」に基づいて実施されている学校関係者評価委員会により精査（外部評価）されている。なお、自己評価、及び学校関係者評価委員会による評価結果は、ホームページにて公開されている。

【関係者評価】

- ・ 個人情報は適切に取り組んでいるが規定整備が今後の課題。

【回答】

- ・ 個人情報保護規定は学園で4年度末に整備済み。

基準10 社会貢献・地域貢献

自己評価結果

高等学校が行うキャリア教育への支援として、見学会の受け入れ、出張講義等を積極的に行っている。
学校周辺及び最寄り駅付近のボランティア清掃を年間通じて実施している。
地域（台東区）の小中学校には、毎年「学びのキャンパスプランニング事業」に応募（依頼があれば出向く）している。

【関係者評価】

- ・ 特に小学校などで、ファッション分野の専門家として地域貢献できる機会があると良いです。
- ・ 積極的に取り組んでいると感じた。
- ・ ユニバーサルデザインなど社会に役立つ教育に取り組む。

【回答】

- ・ 今後も台東区へは要望があれば積極的に対応していく。